

# 令和2年度 シラバス

愛媛県立津島高等学校

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2	学年	2年	類型	ビジネスコース
教科書	家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍)			副教材	家庭総合学習ノート(東京書籍) 調理実習ノート【基礎編】(愛媛県高等学校教育研究会家庭部会編)				

学期	月	単元名	指導項目、内容	評価の観点				学習のねらい・学習の目標・評価の観点	
				①	②	③	④	学習のねらい	
1 学期	4	(家庭クラブ活動)	防災対策 マスク作り	◎		○		1学期は、現代の消費生活の課題について知り、資源や環境に配慮し消費者として責任をもって行動できるようにします。食生活の学習においてもエコクッキングを意識して、調理実習を行います。 2学期は、食品、調理などについて科学的に学ぶとともに食生活に関心をもち、必要な技術を習得して充実した食生活を営むことができるようになります。調理実習を行い、調理の基礎・基本を身につけます。 3学期は、住生活と経済生活を結び付けて「一人暮らしの住まい計画」を行い、家庭の経済と住居の機能などについて総合的に学習を行います。	
		第5章 経済生活を営む	7消費生活と環境 (1)消費生活と環境問題 (2)持続可能な社会を目指して (3)消費者としてできること	◎			○		
	5	第6章 食生活をつくる	7これからの食生活 (1)食料生産と食料問題 (2)食の安全の確保	○			◎		
		6	調理実習1 (豚肉のしょうが焼き他)			○	◎		
			調理実習2 (サラダ寿司他)		○		◎		
	7	1食生活の課題について考える	(1)青年期の食生活の課題 (2)食べるとは	○	◎				学習の目標 食生活、住生活、消費生活などに関する知識と技術を総合的に学び、家庭生活の充実向上を図る能力や実践的な能力を身に付けます。
		期末考査		○	○	○	◎		
(3)食生活の課題 (4)食生活の変化			◎			○			
2 学期	8							① 人の一生とのかかわりの中で、食生活、住生活、消費生活などに関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組んでいるか。 ② 人の一生とのかかわりの中で、食生活、住生活、消費生活などを見直し、よりよい生活を工夫しているか。 ③ 人の一生とのかかわりの中で、食生活、住生活、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術が身に付いているか。 ④ 人の一生とのかかわりの中で、食生活、住生活、消費生活などに関する総合的な知識が身に付き、理解できているか。	
		2食事と栄養・食品	(1)生涯の健康と食事 (2)栄養と栄養素 (3)炭水化物 (4)脂質	○			◎		
		調理実習3 (青椒肉絲他)			○		◎		
	9		(5)たんぱく質 (6)無機質 (7)ビタミン	○			◎		
		調理実習4 (クリームスパゲッティ他)			○		◎		
	10	3食生活の安全と衛生	(1)食品の選択と保存 (2)食生活の衛生と安全		◎		○		
		調理実習5 (魚のホイル焼き他)			◎		○		
		期末考査		○	○	○	◎		
	11	4生涯の健康を見通した食事計画	(1)栄養バランスのよい食事	○	◎				
		6食生活の文化と知恵	(1)日本の食文化 (2)世界の食文化	◎			○		
第5章 経済生活を営む		1職業生活を設計する (1)自立した生活のための意思決定(2)経済的に自立する (3)長期的職業生活	○	◎					
3 学期	1	2計画的に使う	(1)収入と支出を知る (2)家計のマネジメント		○		◎		
		3現代の消費社会	(1)契約と契約トラブル (2)商品の販売方法 (3)消費者をめぐる問題	○			◎		
		第8章 住生活をつくる	1住生活について考える (1)住居の機能と変化 (2)平面図を理解する (3)住居の計画 (4)誰もが住みやすい住居		◎		○		
	2	2住生活の計画と選択	(1)安全で快適な住生活 (2)健康な住生活	○			◎		
		(3)住居の維持と管理		○			◎		
	3	3住生活の文化	(1)気候風土に応じた住居 (2)さまざまな住様式	◎	○				
		4これからの住生活	(1)持続可能な住居 (2)社会環境と住居	○	◎				
学年末考査			○	○	○	◎			

※評価の観点 ①：関心・意欲・態度 ②：思考・判断・表現 ③：技能 ④：知識・理解

◆学習方法のポイント

【家庭総合は総合学習】

- 家庭総合はすべての高校生が学ぶ家庭科の基礎科目のひとつです。
- 小学校・中学校で学習した様々な教科の学習内容を総合し、それらを実生活に活かし、よりよい生活を目指していく科目です。高校生として、これから自らが家庭・家族を創造する主体として、生活の様々な場面でどのように行動するのかを考えるとともに、基礎的・基本的な知識・技術を身につけていきます。
- 授業に意欲的に取り組み、身に付けた基礎的・基本的な知識・技術を、積極的に実生活に活かしていきましょう。また、生活課題を見つけ、その解決を目指して考えを深め、実践していきましょう。

【授業】

- 1、2年次に週に2時間の授業があります。
- 2年次ではおもに「消費生活」「食生活」「住生活」について学習します。
- 単元や学習内容により、授業のすすめ方は様々です。時間毎に示される学習目標に到達できるよう、目標をもって授業に臨みましょう。
- 一般的・総合的な学力・知識が求められます。少なくとも中学校までのすべての教科の学習内容を理解しておきましょう。また、社会の変化や情報に関心を持ちましょう。
- ノートは板書だけでなく、口頭で示された重要ポイントも記しておく、復習する時や実習・実践の時に役立ちます。
- 学習した内容について家族と話し合ったり、家庭で実践することで、思考が深まり知識や技術が身につきます。

【家庭学習】

- 日々の生活に関心をもつとともに、積極的に家事に参加し、家族の一員としての役割を果たしましょう。
- 日々の生活の中で見つけた課題を、学習成果を活用し、解決しましょう。(ホームプロジェクトの実践)

【定期考査】

- 学期末に考査を行います。考査範囲が広いですが、まんべんなく復習しましょう。
- 重要単語だけを暗記するようなことはせず、言葉の意味や背景、課題などと合わせ総合的に理解をするよう努めましょう。
- 板書だけでなく、メモを活用し、授業内容を復習しましょう。
- 実習内容を振り返り、実習のポイントとその理由について復習しましょう。

◆評価の方法、基準

評価の方法	定期考査、授業や実習への出席状況および学習意欲、課題提出とその内容、実習ノートの整理状況を①関心・意欲・態度②思考・判断・表現③技能④知識・理解の四つの観点から評価します。実技テスト、定期考査をもとに総合的に評価します。
評価の基準	1 学期 期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②の観点から評価します。) 実習ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	2 学期 期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②の観点から評価します。)
	3 学期 期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②の観点から評価します。) 実習ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	学 年 1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均をもとに評価